



### 1. 第8回幅広いアプローチ運営委員会の開催

第8回幅広いアプローチ運営委員会が昨年12月15日にマドリッドのCIEMAT 研究所において開催された(図1参照)。運営委員会では、幅広いアプローチ活動の三事業(IFMIF/EVEDA 事業, IFERC 事業, サテライト・トカマク計画事業)の2011年作業計画を承認した。

IFMIF/EVEDA 事業では、大洗のリチウム試験ループに係わる許認可が無事に取得されたことが報告され、また将来のIFMIF 建設に必要な工学実証データを最大限利用するために、六ヶ所における原型加速器の実験期間をBA活動終了予定の2017年6月まで延長することが承認された。

IFERC 事業では、2012年初頭から運用されるスーパーコンピュータのための核融合計算機シミュレーションセンター建屋の準備のための調達取決め及び原型炉 R&D に関する調達取決めの署名式が行われた(図2参照)。原型炉 R&D の調達取決めは、欧州の様々な核融合研究所によって実施される予定である。将来の原型炉に向けた材料開発のための R&D 活動が含まれている。また、原型炉に対する日欧共通の概念の基礎を成す原型炉設計活動が今年から開始される。

サテライト・トカマク計画では、JT-60SA の機器製造及

び建設が順調に進んでおり、日欧の研究者は、JT-60SA 研究計画の詳細な策定を開始した。

次回運営委員会は、5月に茨城県那珂市(日本)で開催される。

### 2. リチウム試験ループでの試験検査を開始

国際核融合材料試験施設の工学設計・工学実証活動(IFMIF/EVEDA)の一環でIFMIFの液体リチウムターゲットの実証試験を行うリチウム試験ループの現地工事が終了し、昨年11月の大洗消防署による最終検査(外観検査)に合格した。その後、12月21日までにリチウムの全量の溶解を完了し、年が明けた1月20日に電磁ポンプを稼働させた流動試験を開始した(図3)。

### 3. 雪景色の六ヶ所サイト

昨年暮れからの降雪で六ヶ所サイトは雪に覆われている(図4参照)。この冬は降雪がいつもより多めだが、晴れる日も多く、雪原でのアウトドアスポーツに興じる人もいる。

現在、原型炉 R&D 棟では実験設備の設置が順調に行われているほか、IFMIF/EVEDA 開発試験棟でも加速器据え付け時の位置決めをするためのベンチマークの設置の準備が行われた。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 マドリッドにて開催された第8回幅広いアプローチ運営委員会(左:日本代表团, 中央:各事業長, 右:欧州代表团)。



図2 IFERC 事業の調達取決め署名式(左から、ブリスコF4E 所長, 中島 IFERC 事業長, 二宮原子力機構部門長)。



図3 組み立て工事が終了した大洗リチウムループ(原子力機構大洗工学センター)。



図4 雪で覆われた六ヶ所サイト(1月18日撮影)。